

## 奄美群島与論島初記録のカワアナゴ科 チチブモドキ *Eleotris acanthopoma*

岩坪洗樹<sup>1</sup>・本村浩之<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学研究所)

<sup>2</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

カワアナゴ科カワアナゴ属魚類 (Eleotridae: *Eleotris*) は、日本国内からカワアナゴ *E. oxycephala* Temminck and Schlegel, 1845, オカメハゼ *E. melanosoma* Bleeker, 1853, チチブモドキ *E. acanthopoma* Bleeker, 1853, テンジクカワアナゴ *E. fusca* (Forster, 1801) の4種が知られている (鈴木・渋川, 2004)。そのうち、チチブモドキはカワアナゴ属魚類のうち最も生息域が広く、陸水の渓流域を除くいたるところに生息し、淡水の影響があると思われる岩礁性のタイドプールにも出現する (岩田, 2001; 鈴木・渋川, 2004)。また、仔魚は降海することが知られている (木村, 2009)。

松沼ほか (2012) では鹿児島県与論島において、汽水域を含める島内の陸水域から10科15種の魚類を報告したが、チチブモドキは含まれていない。また、チチブモドキは鹿児島以南の島嶼では屋久島、喜界島、奄美大島、徳之島、沖縄島、石垣島、小浜島、西表島から記録されているが (岡田・青柳, 1941; 明仁, 1967; 林・伊藤, 1978; 林ほか, 1992)、与論島から記録はない。

2012年8月15日に与論島茶花の水路から7個体のチチブモドキが採集された。これらの標本は、与論島における本種の標本に基づく初めての記録であるため、ここに記載し報告する。

Iwatsubo, H. and H. Motomura. 2013. First records of *Eleotris acanthopoma* (Perciformes: Eleotridae) from Yoron-jima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 39: 55-57.

✉ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

### 材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) にしたがった。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。胸鰭条数は左体側のものを計数した。生鮮時のチチブモドキの体色の記載は、KAUM-I. 47984, 47985の生鮮時のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) に保管されており、標本のカラー写真は同館の画像データベースに登録されている。

### 結果と考察

#### *Eleotris acanthopoma* Bleeker, 1853

チチブモドキ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 47979, 体長 38.0 mm, KAUM-I. 47980, 体長 46.7 mm, KAUM-I. 47981, 体長 49.5 mm, KAUM-I. 47982, 体長 38.8 mm, KAUM-I. 47983, 体長 65.0 mm, KAUM-I. 47984, 体長 32.0 mm, KAUM-I. 47985, 体長 81.4 mm, 鹿児島県与論町茶花の水路下流 (27°04'08"N, 128°41'01"E), 2012年8月15日, 水深 0.2 m, タモ網, 松浦啓一・岩坪洗樹・中村千愛。

記載 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り: 頭長 31.2-33.8 (平均 33.1); 胸鰭基部での体高 20.8-22.5 (21.4); 胸鰭基部での体幅 20.0-24.0 (21.8); 眼径 5.9-6.8 (6.4); 吻長 7.6-8.9 (8.3);



Fig. 1. Fresh specimens of *Eleotris acanthopoma* from Yoron-jima Island, Kagoshima Prefecture, Japan (A, KAUM-I. 47984, 32.0 mm SL; B, KAUM-I. 47985, 81.4 mm SL).

両眼間隔 7.5–11.2 (9.5); 上顎長 11.6–14.4 (12.7); 第1背鰭基底長 15.2–18.6 (16.6); 第2背鰭基底長 15.2–17.3 (16.4); 臀鰭基底長 13.1–15.8 (14.5); 尾柄長 21.0–25.8 (24.2); 尾柄高 12.1–13.5 (13.0).

体部は細長く、円筒形。頭部はやや縦扁する。前鼻孔後端から後鼻孔後端まで無鱗。鰓蓋部の上下の孔器列は後方で途切れる。頬の横列孔器列の4列目のみが縦列孔器列を超える。前鰓蓋皮下に埋没した棘がある。下顎はよく発達し、下顎先端は吻端より突出する。眼は頭部背面に位置する。口は大きく、体長 81.4 mm の個体では上顎後端が眼中央直下を超える。頭部と体側の鱗は円鱗。腹鰭は左右に分かれる。腹鰭始部は胸鰭基底直下に位置する。背鰭は2基ある。第1背鰭基底、第2背鰭基底および臀鰭基底はそれぞれ同程度に長い。臀鰭始部は第2背鰭第1軟条直下に位置する。胸鰭の後端は背鰭基底後端に達する。尾鰭後端は丸い。

**色彩** 生鮮時の色彩 — 体は薄褐色または暗褐

色で、胸鰭基底と尾鰭基底に黒色斑がある。第1背鰭は透明で、2本の黒色縦帯がある。体長 32.0 mm の個体は、第2背鰭と臀鰭は透明で、4本の黒色縦帯がある。尾鰭は透明で、褐色斑が密に散在する。胸鰭は透明で、腹鰭は半透明。体長 81.4 mm の個体は、第2背鰭と臀鰭は暗褐色で、白色で縁取られる。尾鰭は暗褐色。胸鰭は半透明で、腹鰭は黄色がかった褐色。

固定後の色彩 — 薄褐色は灰白色、褐色と黄色がかった褐色は灰色、暗褐色は黒色へそれぞれ退色するほかは、生鮮時とほぼ同様。

**分布** インド・太平洋に散在的に広く分布する(岩田, 2001; 鈴木・渋川, 2004; 松沢, 2011; 明仁ほか, 2013)。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸～九州、五島列島、上甕島、大隅諸島、琉球列島に分布する(岡田・青柳, 1941; 明仁, 1967; 吉野ほか, 1975; 林・伊藤, 1978; 林ほか, 1992; 岩田, 2001; 鈴木・渋川, 2004; 木村, 2009; 松沢, 2011; 明仁ほか,

2013).

**備考** 本標本は、体側に側線がないこと、背鰭が2基あること、第1背鰭が6棘であること、両眼間隔域に鋸歯がないこと、鰓蓋部の上下の孔器列は後方で途切れること、前鰓蓋皮下に埋没した棘があること、頬の横列孔器列の4列目のみが縦列孔器列を超えること、胸鰭軟条の上縁は遊離しないこと、腹鰭が左右に分かれること、明色時に頭腹面に白色斑がないことなどからチチブモドキ *E. acanthopoma* と同定された。

本種は与論島において茶花の水路の下流部で見られ、散在する転石の下に単独で生息していることが観察された。同所は、底質がコンクリートで、水深は0.2–0.3 mであった。

なお、チチブモドキ *E. acanthopoma* とオカメハゼ *E. melanosoma* は、明仁(1967)による報告まで混同されていた。松原(1955)は *E. melanosoma* に和名オカメハゼを用いたが、中村(1963)は *E. melanosoma* に適用する和名をチチブモドキとした。しかし、明仁(1967)は、日本産カワアナゴ科魚類の形態比較および和名の検討を行い、*E. melanosoma* に和名オカメハゼ、*E. acanthopoma* に和名チチブモドキをそれぞれ適用した。

## ■ 謝辞

与論島での調査・滞在に際して鹿児島大学与論活性化センターの高橋 肇氏、ヨロンダイビングサービスの竹下敏夫氏、与論町漁業協同組合の酒匂兼峯氏をはじめ職員のみなさま、与論町役場の龍野勝志氏をはじめ職員のみなさま、与論町商工会の岩村中里氏をはじめ職員のみなさま、国立科学博物館の松浦啓一博士、千葉 悟博士ならびに片山英里博士、神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士と内野啓道氏、高知大学理学部の遠藤広光博士、水産総合研究センター西海区水産研究所の岡本 誠博士、鹿児島大学魚類分類学研究室の吉田朋弘氏、田代郷国氏ならびに中村千愛氏には多大なご協力をいただいた。また、鹿児

島大学総合研究博物館ボランティアと同大魚類分類学研究室のみなさまには標本整理などのご協力をいただいた。以上の諸氏に対して深く感謝の意を表す。なお本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト(浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041)の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- 明 仁. 1967. 日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の4種について. 魚類学雑誌, 14(4/6): 135–166.
- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2000. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・伊藤 孝. 1978. 南西諸島のハゼ科魚類について (I). 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (24): 59–82.
- 林 公義・伊藤 孝・林 弘章・萩原清司・木村喜芳. 1992. 奄美大島の陸水性淡水魚類相と生物地理学的特性. 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (40): 45–63.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Bulletin of Cranbrook Institute of Science, (26): i–xi + 1–186.
- 岩田明久. 2001. チチブモドキ, p. 555. 川那部浩也・水野信彦・細谷和海(編), 日本の淡水魚, 第三版. 山と溪谷社, 東京.
- 木村義志(監). 2009. 増補改訂フィールドベスト図鑑6 日本の淡水魚. 学習研究社, 東京. 264 pp.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 II. 石崎書店, 東京. v + 791–1605 pp.
- 松沼瑞樹・龍野勝志・本村浩之. 2012. 鹿児島県与論島で採集された汽水・淡水魚類. Nature of Kagoshima, 38: 109–114.
- 松沢陽士. 2011. ポケット図鑑 日本の淡水魚 258. 文一総合出版, 東京. 315 pp.
- 中村守純. 1963. 原色淡水魚類検索図鑑. 北隆館, 東京. 258 pp.
- 岡田彌一郎・青柳兵司. 1941. 琉球列島の淡水魚類概観説. 動物学会誌, 53: 118–119.
- 鈴木寿之・渋川浩一. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.
- 吉野哲夫・西島信昇・篠原士郎. 1975. 琉球列島産魚類目録. 琉球大学理工学部紀要(理学篇), (20): 61–118.